

第137号

副会長挨拶
三河女性管理職者会会長挨拶
総務委員会
研究大会・研修会等の報告
今後の研究大会・研修会等のご案内
三教研ホームページのご案内

教育





夏季研修会の思い出から

三河教育研究会 副会長 中野渡 善 樹

この夏、早々の梅雨明け宣言から始まり、予想通りの連日の猛暑となりました。加えて、新型コロナウイルス感染症の急拡大もあり、熱中症対策と感染症対策、両面への配慮をしなければならぬ厳しい毎日となりました。そうした中でしたが、関係の皆様のご尽力により、各部の夏季研修会を実施することができました。多くの会員の皆様の参加を得て、若手の先生方を中心に力量向上が図られたものと思います。開催、運営に携わってくださったすべての皆様に、感謝申し上げます。ありがとうございます。

私も教員生活駆け出しのころ、夏季研修会で鍛えられた思い出があります。自分の専門教科である保健体育部会の夏季研修会は、当時、泊を伴う研修会でした。そのために、分科会の時間がたっぷりと設定されており、白熱した意見が交わされる協議であったと記憶しています。自分が拙い実践レポートを発表する機会をいただきましたときなど、先輩方、各地区の先生方から妥協のない質問やご意見をいただきました。鋭い指摘が飛び交う中、冷や汗をかきながら、しどろもどろに答えていたことが思い出されます。自分の実践の未熟さや研究内容の稚拙さを思い知らされました。

悪戦苦闘をしましたが、知見を広め、専門教科とじっくり向き合うことのできる貴重な研修の場となりました。他地区の先生方との情報交換、さらには講師の先生からもじっくりとお話を伺える機会があるなど、有意義な二日間でした。大いに刺激を受けて、学ばせていただいたことを、その後の実践に生かすことができました。

時代が移り、働き方改革、学校改革の流れの中で、夏季研修会の在り方も変わりました。しかし、三河各地区から実践を持ち寄り、切磋琢磨するスタイルは継承されています。先進的な取組、地域性を生かした取組など多様な実践に触れ、情報交換することがよりよい授業づくりにつながります。三教研が掲げる「三河のすべての子どもたちに、優れた教育を保証する」という原点をこれからも大切にしていかなければなりません。こうした理念を受け継いで、夏季研修会をはじめとした各部の取組が、より充実したものになっていくことを願っています。



教師冥利に尽きる

三河女性管理職者会 会長 井 上 美智子

卒業式の前日、最後の練習が終わった後「井上先生、舞台にお願います。」と、指揮者の生徒に声をかけられました。卒業式を翌日に控え、いつものように気持ちを高める言葉がほしいのかと思ひ、話をしようとしたとき、予想もしなかった言葉がかけられました。「先生、今までご指導ありがとうございました。先生は明日、お子さんの卒業式に出るので、僕たちの最後の歌声を聴いてもらうことができません。だから、今から僕たちは先生一人だけのために歌います。聴いてください。」いつの間にか舞台の真ん中に椅子が用意されていました。

卒業式は学校が一番大切な行事であり、それまで指揮や伴奏を行うのは音楽教師に任されていました。音楽教師としての責任感と、子どもの卒業式に出席したいという思いの中で何日も悩んだ末に「指揮者と伴奏者をしっかり」と指導するの、子どもの卒業式に出席させてください。」と、どきどきしながら校長先生に自分の思いを伝えました。「いいですよ。指揮者と伴奏者の指導をよろしく頼みますね。」校長先生の笑顔を見て、ほっとすると同時に、精一杯指導を頑張ろうと決意しました。

卒業式の歌の指揮と伴奏を生徒が行うことは、今では当たり前のようになっていますが、その当時は違いました。それでも多くの生徒が立候補したことも後押しとなり、生徒たちのために頑張ろうと指導に熱が入りました。生徒たちも、感動できる合唱にするのだという強い思いをもって、熱心に練習に取り組みました。練習が進むにつれ「男声と女声の掛け合いの部分はどうやって指揮したらよいか。」「歌い出しの部分そろえるためにはどうしたらよいか。」と積極的に教えを乞う姿が見られるようになりました。生徒の学ぼうとする姿勢に、直接応えられる幸せも感じました。

「教育は共育である」とはよく言われます。感動できる合唱にするという目標達成のために、生徒と教師が共に学び合い、成長することができた貴重な日々を過ごすことができました。

舞台上で聴いた「大地讃頌」の歌声は、私にとって一生忘れられない財産です。だから教師は辞められない、そう思ったひとときでした。

三河の教育のさらなる 発展を目指して

— 令和四年度 研究大会・
夏季研修会を終えて —

夏季研修会を終えて

総務委員会

総務委員会では、五月十八日の定期総会以降、役員会議・評議員会議を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・各委員会の夏季研修会等の充実について、協議を重ねてまいりました。

本年度も、新型コロナウイルス感染症の対策を講じた上で、夏季休業中に十六の研究大会・研修会が開かれました（紙上開催等含む）。子どもたちが、新しい時代を生き抜くための資質・能力を育むことができる授業を目指し、活発な議論が展開されました。秋以降にも八つの研究大会・研修会等が計画されています。

また、授業力養成講座Ⅰを西三河は八月二十四日に岡崎市総合学習センターにて、東三河は八月二十三日に田原文化会館にて開催しました。二日間で約百名の受講者が集い、熱心に研修が進められました。

これらの研究大会・研修会、授業力養成講座での学びが、これからの三河教育の推進に生かされることを期待します。

なお、研究大会・研修会の運営に際し、関係市町村教育委員会・関係機関の方々にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

研究大会・研修会等の報告

国語

言葉に対する見方・考え方を広げ、
学び合い、深め合う授業

令和四年度 国語部会夏季研修会
期 日 八月五日（金）
場 所 へきしんギャラリープラザ（安城）
参加者 二百三十五名
講演会 「言葉の不思議」
講 師 歌人 穂村 弘氏

各分科会では、研究テーマ「言葉に対する見方・考え方を広げ、学び合い、深め合う授業」に沿った実践についての提案がなされました。

協議会では、子どもが深く学び合う授業づくりについて、提案者の確かな実践をもとに、活発な議論が展開されました。参加者からは「今後の単元づくりの参考にしたい」という前向きなご意見を数多くいただきました。

分科会後の講演会では、歌人の穂村弘氏をお招きしました。「言葉の不思議」という演題で、言葉の一語一語がもつ力について、ユーモアを交えながらお話しいただきました。

最後になりましたが、本研修会を支えてくださった安城地区の先生方、提案・助言・司会の先生方に心より感謝申し上げます。



講演される穂村弘氏

国語科におけるICTの活用を目指して

知立・知立南中 保田 大輔

分科会では、「中学校・読む」に参加しました。ICTを最大限に活用した実践を展開されていました。「Microsoft Teams」のチャット機能を活用して、短歌を分析し合い、よりよい短歌とはどのようなものか、考えを深める生徒の様子が見られました。

授業を行う際に、情報を収集、整理する場面、自分の考えを深める場面など、ICTの特性を理解したうえで適切に活用し、生徒の力を高めていきたいと思われました。

協議会では、参加された先生方のICTを活用した実践例について教えていただきました。読む領域でのICTの活用は難しいと感じています。今回学んだことをもとに効果的な活用方法を考え、生徒の成長に貢献していきたいと思えます。

書 写

令和四年度 書写実技講習会
期 日 七月二十二日（金）
場 所 むらさきかん（岡崎）
参加者 二十七名
講演会 「現代書」について
講演・実技講師 岐阜女子大学教授
中根 海重 先生

たくさんの学びと気づき

西尾・鶴城中 田代 幸佑

前半の講演では、現書壇のルーツを知ることができ、芸術としての書の側面について深く学ぶことができました。後半の実技講習では、書き初めの題字の練習を行いました。はじめにスクリーンを使い、「穂のS字形」や「背中の線」の筆使いについて大変丁寧にわかりやすく説明をしていただきました。実際に中根海童先生からの添削指導を受けると、運筆のわずかな違いで生じる、線や点の大きな違いを感じることで、大変感銘を受けました。また、的確な助言をいただく、生徒に指導する視点に気づくことができました。

講習会で得た

たくさんの学びや気づきを、今後の書写指導の場面で生かしていきたいと思えました。



書写実技に取り組む様子

社会

社会的な見方や考え方を働かせ、

仲間とともによりよい社会づくりへの

参画をめざす社会科の授業

(一年次)

令和四年度 社会部会夏季研修会

期 日 八月四日(木)

場 所 蒲郡市民会館

参加者 二百八十名

講演会 「子どもにとっての

社会参画と教師の支援」

講 師 愛知教育大学教授

土屋 武志先生

隔年で開催されている夏季研修会が、蒲郡市民会館で開催され、盛会のうちに幕を閉じました。

講演会では、土屋武志先生にお話をいただきました。先生からは、今年度から一新した本会の研究主題と関連して、社会参画の在り方やそれに対する教師の支援についてお話をいただきました。子どもたちが主体的に学習を進めていくためには、教師主導の課題や授業展開ではなく、子どもの関心や疑問から授業を展開し、そのなかで教師もともに学ぶことが大切であるとお話ししてくださいました。「社会科は多様性を学ぶ場であり、子どもから様々な考えが出てきたら教師は喜ぶべきだ」というお言葉は、わたしたちが社会科の授業を構想するうえで、大切にしていかななくてはならないもので

あると強く感じました。

講演会の後は六つの分科会に分かれ、各地区の実践が提案されました。土屋先生も参観され、子どもの思考の流れがわかる単元構想の必要性についてご助言いただきました。

わたしたち

社会部会

は、今回の

夏季研修会

の研究成果

と課題を踏

まえ、今後

も研究に取り組んでまいります。

最後に、来賓の先生方をはじめ、分科会の内容を深めていただいた助言者の先生方、並びに関係諸機関の先生方に深く感謝申し上げます。



講演される土屋武志先生

社会参画をめざす社会科の授業

岡崎・六ツ美北中 成田 道俊

公民学習は、直接的に生徒の生活と結びついているはずなのに、自分事としてとらえにくい分野です。今回発表した実践では、裁判員制度を取り上げ、導入として裁判員候補者名簿を提示しました。これが、社会的現象を身近なこととしてとらえることができるきっかけとなりました。生徒たちが、今後も裁判員制度を続けていくべきか活発に話し合う姿は、土屋先生の講演の内容とも合致しており、社会参画を具現化する姿であったと感じました。

算数数学

「主体的・対話的で深い学び」の

実現に向けた算数・数学教育の実践

令和四年度 愛知県数学教育研究会

小中学校部研究大会

期 日 八月二十五日(木)

場 所 蒲郡市民会館

参加者 三百五十六名

講演会 「数学的活動の授業デザイン

」 「主体的・対話的で深い学び」

の実現に向けて」

講 師 文教大学教授

永田潤一郎先生

令和四年度愛知県数学教育研究会小中学校部研究大会を、蒲郡市民会館にて開催しました。こうした会の開催は、三年ぶりとなりましたが、三河各地から、多くの先生方にご参加いただきました。

前半は、小中学校合わせて十二の提案を六分科会に分かれて協議しました。それぞれの分科会で、「主体的・対話的な学び」「数学的活動」「ICTの活用方法」などをキーワードとした各地区の実践が提案され、愛知教育大学の先生方から、それぞれの実践に対してご助言をいただき、大変充実した研修の機会となりました。三年ぶりの開催でしたが、三河地区の先生方が一堂に会して議論を交わす、貴重な機会であることを改めて実感しました。

分科会后、文教大学の永田潤一郎先生

より、「数

学的活動の

授業デザイ

ン」という

演題でご講

演をいただき

ました。

「主体的・

対話的で深

い学び」を

実現するた

めに、数学

的活動の位

置づけにつ

いて、具体

例を挙げな

がらご指

導をいただき、算数・数学科の楽しさを子どもに伝えたいという思いを強くすることができました。

愛数研蒲郡大会に参加して

蒲郡・蒲郡南部小 稲熊 亮

今回、蒲郡地区で大会が開催でき、参加できたことを本当にうれしく思います。分科会で、教材や教具の工夫、ICTの活用、話し合いのもち方など、子どもたちが主体的・対話的に学ぶための手立てをたくさん取り入れた実践を聞くことができ、とても参考になりました。

講演会では、子どもたちが「考える楽しさ」を味わえるように、目的をもって数学的活動を取り入れていくことの大切さを学びました。子どもの主体的な学びを引き出せるよう、教師が意図的に仕組む授業づくりに努めていきたいです。



講演される永田潤一郎先生

理科

自然現象を主体的、協働的に追究し、豊かな心と創造力を培う理科学習

令和四年度 理科部会夏季研修会
期 日 八月五日（金）
場 所 刈谷市産業振興センター
参加者 二百三十五名
講演会 「最近の教育の動向から、理科教育を考える」
講 師 福島大学准教授 鳴川 哲也 先生

講演会では、鳴川哲也先生をお招きし、新しい時代の理科教育の在り方について、実践を踏まえながらご講演いただきました。学習指導要領の内容に触れ、子ども中心の理科の授業づくりの重要性を語られました。また、GIGAスクール構想が進む中でも、調べて終わりではなく、実験・観察を通して実物に触れ、自分たちで考え学んでいくことに、子どもたちが自ら価値を見いだし、理解できることが大切だと教えてくださいました。講演の最後には、



講演される鳴川哲也先生

「勉強すればするほど知識も増えるが未知も増える。学ぶことに喜びを感じる子どもたちを育てることが大切である」と締めくくられました。参加者からは「ICT化が進んでも、子どもたちの目で手で耳での経験を通じて、考えを深め、知識を増やしていくことが大切だ」「今一度原点に立ち返り、子どもたちを中心とした理科の授業を展開していきたい」という声がありました。

分科会では、小学校下学年、小学校上学年、中学校において、それぞれ二つずつの実践について報告され、活発な協議が行われました。参加者からは、学んだことを今後の授業づくりに役立てたいとの意見をいただきました。

夏季研修会を終えて

豊橋・本郷中 二村 昇

「なぜ人の体が浮くの？」どうして浮くのかわかったよ」今回の研究では、子どもから切実感のある疑問の声が多く上がり、その疑問を追究するために一生懸命に思考を巡らす姿が多く見られました。教材研究の段階から、授業実践、発表まで、助言者の先生をはじめ、豊橋市理科研究部の先生方に多大なるご支援、ご助言をいただきました。また、本研修会では、三河の先生方の理科教育への熱心な思いや考えに触れることができました。今回の学びを生かし、豊かな心と創造力を培う理科学習の発展に寄与できるように、今後も努めていきます。

生活科

新たな価値を創出し、

生活の中に生かす子ども
子どもの思いや願いの実現をめざし、
学び続ける授業

令和四年度 生活科部会夏季研修会
期 日 八月四日（木）
場 所 岡崎市民会館
参加者 二百二十名
講演会 「生活科の授業づくりと学習評価」
講 師 国立教育政策研究所 教育課程調査官 齋藤 博伸 氏

本年度の三河教育研究会生活科部会夏季研修会は、岡崎市にて、約二百二十名の方にご参加いただき、開催することができました。

三つの分科会では、テーマを基に、新たな価値の創出を視点とした質の高いレポートが提案され、参加者からは今後の実践で参考になるという多くの声を聞くことができました。助言者の先生方からは、提案実践の具体的な場面を取り上げながら、子どもたちの思いや願いを実現するために、今後の実践を深めていくうえでの貴重なご助言をいただきました。講演会では、生活科の授業づくりと学習評価をテーマに、具体的な場面を取り上げながらご講演いただきました。指導と評価の一体化や子どもの気づきを言語



講演される齋藤博伸氏

化していくことの大切さを学びました。最後に、本大会を開催するにあたり、お世話になりました岡崎支部の先生方に深く感謝申し上げます。

提案を通して

岡崎・根石小 大久保日向子

今回、子ども自らが考え活動する中で、自らのよさや成長に気付く授業の構築をねらいとして実践に取り組みました。発表後の質疑応答では、子どもの思いに寄り添った支援の仕方や、活動をよりよくするための話し合いの場の活用についてご意見をいただきました。子どもの自力解決を支える教師支援の在り方を見直すよい機会となりました。

今後も、個々の課題を協働的な学びで解決する学習を展開する中で、子どもが思考を往還し、自らの力で最適解を導き出すことができる授業を目指します。子どもの「〜したい」が充実するような教師の働きかけを意識し、新たな価値の創出につなげていきたいです。

英語（外国語活動）

グローバル社会を生き抜く

英語力の育成

令和四年度

英語（外国語活動）部会夏季研修会

期日 八月五日（金）

場所 豊田市福祉センター

参加者 二百二十二名

講演会1 「評価につながる指導
—目的・場面・状況を

考慮して—」

講師 愛知教育大学教授

建内 高昭 先生

講演会2 「学級担任、外国語専科から見た
小学校英語外国語科の今」

講師 尾張旭市立東栄小学校教諭

鈴木由季子 先生

本年度の英語（外国語活動）部会夏季研修会を豊田市福祉センターで開催しました。各地区より多数の参加者があり、盛大に開催することができました。

開会式後の分科会では、四名の先生方の研究発表をもとに研究協議を行いました。タブレットの活用方法や振り返りの工夫などの実践について報告され、参加者からは今後の授業で実際にやってみたいという声を聞くことができました。助言者の先生方からは、言語活動に必要な要素や活動における教師の役割など貴重なご助言をいただくことができました。分科会終了後、愛知教育大学教授の建

内高昭先生にご講演いただきました。講演では、目的・

場面・状況を考慮して評価

につなげることを教えていただきました。

また、尾張旭市立東栄小学校教諭・鈴木

由季子先生の講演では、外国語活動にお

ける具体的な実践例が多く、参加した先生方からも分

かりやすかったと感想をいただきました。

夏季研修会に参加して

豊田・旭中 近藤麻沙美

第二分科会では、自分の想いを伝えるための帯活動の工夫が具体的な実践とともに発表され、今後の授業づくりに役立つ手だてを学びました。

建内高昭先生の講演では、学習指導要領で目指す資質・能力を育成するために必要な各領域でのポイントを学ぶことができました。

対面での研修会で、直接聞くことができた様々な先生方の意見を今後の授業づくりに生かしていきたいと感じました。



講演される鈴木由季子先生



講演される建内高昭先生

道徳

豊かなかわりの中で自己を見つめ、

よりよく生きる子どもを育てる

道徳教育

令和四年度 道徳部会夏季研修会

期日 八月五日（金）

場所 豊田市産業文化センター

参加者 二百名

講演会 「うれしい、楽しい、道徳

大好き！～しなやかな

道徳授業をめざして～」

講師 岐阜聖徳学園大学准教授

山田 貞二 先生

本年度の夏季研修会では、岐阜聖徳学

園大学教育学部准教授の山田貞二先生にご講演をしていただきました。その中で、「作品」そのものを、一人の人間として

力いっぱい追究する「素材研究」の大切さをご教授いただきました。さらに、子どもが出した意見に対して補助発問をして、子どもの既成概念を揺さぶり、考えを深めていくことで、多面的・多角的に

物事を捉えていくことの必要性等について事例を交えて話していただき、大変有意義な時間となりました。参加された先生方からは、「二学期からの道徳科の授業で早速取り入れていきたい。」という

感想が寄せられました。

講演後は、四分科会に分かれ、活発な研究協議や意見交換がなされました。小学校低学年部会では、「『この子の輝き』

を認める道徳教育の充実」を目指した授

業実践、中学年部会では、「『特別の教科

道徳』を要とした道徳教育の充実」を目

指した授業実践、高学年部会では、「自己

と向き合い、友達とよりよい人間関係を

築いていこうとする子供の育成」を目指

した授業実践、中学校部会では、「自己を

見つめ仲間と語りあうことでよりよく『い

きよう』とする生徒の育成」を目指した

授業実践が報告されました。提案者の工

夫あふれる実践と活発な協議により、実

り多い研修会となりました。

道徳部会夏季研修会に参加して

豊田・井郷中 柴田 悠幾

今回の講演では、子どもが多面的・多

角的に考え、深い学びに向かうことができ

る授業のつくり方について学びました。

中心発問で多面的な意見を取り上げ

様々な考えを拡散し、深化（補助）発問

で多角的な意見を取り上げながら考えを



講演される山田貞二先生

特別支援教育

一人一人の子どもの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実

令和四年度

特別支援教育部会夏季研修会

期日 八月五日(金)

場所 みよし市文化センター

サンアート

参加者 二百六十名

講演会 「社会福祉領域から

特別支援教育に望むこと」

講師 愛知教育大学准教授

佐野 真紀先生

本年度の特別支援教育部会夏季研修会をみよし市文化センターサンアートで開催しました。各地区より多数の参加者があり、盛大に開催することができました。前半の講演会では、講師の佐野真紀先生から、エンパワメントアプローチの視点で、たいへん示唆に富むお話をいただきました。特別支援学級に在籍する児童・



講演される佐野真紀先生

生徒は、様々な困難に直面しがちであり、児童・生徒の中には「あきらめ・不信・自己嫌悪」に陥ってしまうこともありま。そこで、私たち教師が、「自己のこだわり」を見直すことで、児童・生徒が「話したくなる」「人の話を聴く気になる」「明るさを取り戻す」ようになり、自己の信頼を取り戻す一助となることを学ぶことができました。

後半は、七つの分科会に分かれ、提案者の先生方から、実践報告発表をしていただきました。その後、グループや全体で提案者の実践を基に意見交換や、先生方が日頃取り組まれている課題やその対策等についての情報交換がなされました。

「子どもの実態に合わせた交流の形」

豊川・御津中 兵藤 義信

第三分科会「交流及び共同学習」に参加しました。ここでは、交流学級で授業を受ける際の工夫と、居住地校交流の実践について学びました。

その中で、児童の不安やストレスを軽減し、交流学級の授業を受けられるように、予め授業の流れを説明することや、興味のあるタブレットを使用するといった工夫がありました。また、居住地校交流では、リモートで何度もお互いの顔を見ながら交流をすることで、実際に会っても緊張しなくなったという報告がありました。短時間での交流から、リモートを利用する挑戦をしたいと思います。

総合的な学習

主体的・協働的に探究し、

よりよく課題を解決する

総合的な学習の授業(三年次)

令和四年度

総合的な学習部会夏季研修会

期日 八月二日(火)

場所 へきしんギラクシープラザ(安城)

参加者 百九十九名

講演会 「主体的・協働的な学びを深める

「たんきゅう」と「そうこう」

講師 愛知教育大学教授

加納 誠司先生

今年度は、まず二つの分科会に分かれて、十地区からの実践が提案されました。各分科会で熱心な質疑応答、助言者の先生のご助言をいただくことができました。



講演される加納誠司先生

その後に行われたご講演の中で、加納先生は、「たんきゅう」とは、「そうこう」とは何かについて、先生がご指導された各地の授業実践をもとに、お話をされました。探究は学びであり、総合は勉強であり、生活の中にある人・もの・こととのかかわりを通して、協働

的な学びへ問題意識を発展させることの大切さについて解説をしていただきました。ユーモアを交えた話しぶりや「心が動くような体験」をした子どもたちの変容に引き込まれ、充実した時間を過ごすことができました。

夏季研修会に参加して

刈谷・日高小 坂田 樹哉

分科会で二つのことを学びました。一つ目は、探究のプロセスを大切にすること、元の中で、『本物に触れさせる』ことが重要だということです。豊川地区の実践では、語りで昔話を伝えるために、落語家さんを招いて話し方を学びました。本物に触れることで、子どもたちは専門的な知識や技術を直接感受し、願いや思いを強くしていました。二つ目は、探究のプロセスの中で、子どもたちの学習に関わって、アドバイスをしたり、価値付けをしたりする人がいることで、更なる学習への意欲を高め、より豊かな学習の姿が現れるということです。西尾地区の実践では、西尾遺産の認定基準を作り、認定を受けるために、校長先生と実行委員の方への二度のプレゼンの場を設定しました。そして、子どもたちが考える西尾遺産の価値を、分かりやすく説明するための工夫をすることができました。

これから、本物に触れる機会を増やすとともに、新たな価値に気付いたり、自ら評価したりできる単元構成を考えていきたいと感じました。

今後の 研究大会・研修会等のご案内

造形

子どもの思いが広がる造形教育

令和四年度 愛知県造形教育研究会総会並びに
第五十七回愛知県造形教育研究協議会

期 日 十一月十一日(金)

場 所 岡崎市総合学習センター

参加者 百五十名(予定)

研究発表 (三河部)

「想像力をはたらかせ、つくりだす
喜びを味わうことのできる子の育成
—小5『集まれ、5年4組オリジナル
キャラクター!』のキャンパプア
イヤー復活!」の実践を通して—

豊橋市立豊岡中学校

加藤 良太先生

「伝えたいという願いをもち、技能
や発想に自信をつけることで、主体
的に表現を追求することができ
生徒の育成

—中3『タブレット端末を活用した
学校CM制作』の実践を通して—

豊田市立崇化館中学校

加藤 郁也先生

講演会 「ICTと

図工・美術科教育(仮)」

講師 愛知教育大学准教授

永江 智尚先生

本年度は、十一月に岡崎市で、愛知県
下の小・中学校より、約百五十名の先生
方にご参加いただき、愛知県造形教育研
究会総会並びに第五十七回愛知県造形教
育研究協議会を開催する予定です。三河
部からは、二名の先生に発表していただ
きます。

豊橋市立豊岡中学校の加藤良太先生
は、プログラミングソフトを使い、「自
分のオリジナルキャラクター」をつくる
実践に取り組まれました。子どもたちが
達成感や満足感を得られるよう、想像力
とかかり合いに重点をおいた手立てを
考え実践されました。豊田市立崇化館中
学校の加藤郁也先生は、生徒たちが主体
的に表現を追求する姿を目指し、ゲスト
ティーチャーやICTの活用、発表の場
の設定などの手立てを講じて、「学校C
M」を制作する実践に取り組まれました。
研究発表後の協議では、発表者・参観者
の間で活発な意見交換が行えればと考え
ております。

講演会では、愛知教育大学准教授の永
江智尚先生から「ICTと図工・美術科
教育(仮)」について、図工・美術科の
授業でどうICTを活用していくことが
できるか、お話をいただく予定です。

本年度は、三河地区での開催となり、
三河地区の多くの先生方にご参加いただ
き、図工・美術科のよりよい授業づくり
について考える機会にできればと思っ
ております。ご協力よろしく願います。

その他の研究大会・研修会等

愛知県書道教育研究協議会	11/30	未定
愛知県小中学校音楽教育研究大会	10/14	尾張旭
愛知県造形教育研究会 総会及び協議会	11/11	岡崎
愛知県家庭科研究会安城大会	11/11	安城
東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究会 愛知県中学校技術・家庭科研究大会	10/20・21	名古屋・豊橋
愛知県統計教育研究会発表会・講演会	11/15	名古屋
愛知県生徒指導研究大会	11/9	豊橋
愛知県へき地・複式・ 小規模学校教育研究大会	10/21	豊田
授業力養成講座Ⅱ(西三河)	10/20	岡崎
授業力養成講座Ⅱ(西三河)	10/27	幸田
授業力養成講座Ⅱ(東三河)	10/26	田原

三教研ホームページのご案内

三教研ホームページ
活用してみませんか?

現在の指導案収録件数 **300** 件

すべての子どもの笑顔のために

学習指導案検索

学年、教科等のカテゴリとフリーワードで学習指導案が検索できます。
授業づくりや自己研修のために役立ちます。ぜひご利用ください。
一層充実させるため、会員のみならぬ学習指導案の提供をお待ちしております。

CONTENTS

三河教育研究会について | 情報みかわ | パスナンバー | 活動予定・日程 | 活動記録・資料

三教研ホームページに関してのご意見を
事務局までお寄せください。
アドレス: <https://www.sankyouden.jp/>

編集後記



新型コロナウイルスの流行「第七波」が全国を直撃した今年の夏。そして、三年ぶりに行動制限がない今年の夏となりましたが、夏季休業中に十六の研究会・研修大会が無事開催されました。研修の機会や時間に制限がある中、「指導力を身につけたい」「授業力を向上させたい」「情報交換をしたい」という溢れんばかりの意欲と熱意をもった先生方が集い、熱心な協議が行われました。参加された会員からも、有意義な研修会であったという数多くの声を聞くことができました。秋から年度末のまともに向けて、さらなる充実への一助になることを期待します。

ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

表紙の写真

スポーツフェスティバル
応援ダンス
撮影 安城市立安城中部小学校
水上 敏則先生